

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業のんのルーム 駒場店		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎年2～3回の親子レクリエーションの開催を行っている	家族参加型の行事を開催し、自宅では見られない子どもの姿を見てもらいながら楽しい時間を過ごすこと	親子レクリエーションで支援者と利用児の関わり方や指示の出し方を知ってもらう
2	利用児の自立支援も兼ねて、食育活動にも力を入れている	物の名前や使い方の習得と共に協力して作業をする楽しさを学ぶこと	円滑な対人関係の構築やコミュニケーション能力のスキルアップを行う
3	毎月 市立図書館へ行き、本の貸し出しや返却、読み聞かせの会に参加し、地域の子どもと関わる機会を設けている	情緒を豊かにするきっかけづくりと場の雰囲気を観察し、理解する力を養うこと	貸し借りのルールへの理解や他者との関りを増やしていける様にする

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近年は感染症の懸念もあり、郊外療育にて地域の公園には出かけていたが、児童館等の集団の中での療育は出来ていなかった	感染症が流行していた為	時期がよければ改善できると考える
2	家族支援や家族間の交流も含め親子レクリエーションを実施しているが、参加者が限られている傾向が強い	行事の1ヶ月程度前から詳細についてお便りを配布しているが、保護者の就労の関係で調整や参加が難しい	お便りの配布以外にも行事開催の周知や声掛けにて強化を図る
3			

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 障害児通所支援事業のんの ルーム 胸路店

公表日 令和 7年 2月 27日

利用児童数 令和7年2月17日

回収数 12

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	84%	16%				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	84%	16%				
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	84%	16%				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	92%	8%				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	92%	8%				
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	42%	50%		8%	感染症予防の為やむを得ないと思う	郊外療育にて児童館や公園などに出向き、機会を設けているが周知が不足しているので周知方法を再検討してい
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	92%	8%				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	58%	42%				保護者やきょうだい参加型の行事を開催し、茶話会を通して連携を支援している
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	100%					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	84%	16%				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	92%	8%				
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	75%	25%				保護者やきょうだい参加型の行事を開催し、茶話会を通して交流・連携を支援しているが周知が不十分なので検討が必要である	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	100%					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	92%	8%				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	84%	8%	8%		・思春期なので ・クッキングや集団活動を楽しみにしている	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		障害児通所支援事業のんのルーム 駒場店				公表日	令和 7年 2月 27日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		活動スペースが確保出来ている		
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			職員配置数は足りているが、こどもの状態に応じて複数の職員で対応しなければならない場面がある		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		視覚的な支援を多く取り入れている	現状では該当児童の利用は無いがトイレが車椅子対応になっていない		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		毎日職員が清掃・消毒作業を行っている			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		クールダウン時等の必要に応じて使用できる環境を整えている			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		朝礼時職員ミーティングを実施し、問題解決や事業の改善に努めている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			郊外療育にて地域の他のこどもの活動機会を頻回に設けているが保護者への周知が足りていない	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		朝礼時のミーティングや必要に応じて個別で面談を行っている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		地域の他のこどもを招いて一緒に活動してもらい、終了後 アンケート表にて評価を受けている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		定期的に外部・内部研修を行っている		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		ホームページにて公開している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		児・発・管が行っている		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		個別支援計画案に対し、全支援員が検討している		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		全職員に共有し、支援を行っている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		日々、行動の観察記録を徹底して行っている		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		ガイドラインを基本とし、子供の特性や家族のニーズに合わせて支援内容を設定している		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		職員同士で話し合い、活動プログラムを立案している		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		興味幅等子どものニーズに合わせて固定化しないよう工夫している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		集団活動費を決めており、個別活動と組み合わせている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		朝のミーティング時間に情報共有、役割分担の確認を行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		ミーティング時に情報共有を行い、支援内容の振り返りを行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		個別支援計画に基づき、日々の出来事を記録している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		職員全員でモニタリングを行い、児・発・管が見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		個別支援計画に組み込んで支援を行っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		選択肢を提案しながら自己決定を尊重している	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児・発・管が参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	67%	33%		主治医との連携が不足している
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		都度の調整、急遽の際は電話連絡にて行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		相談支援事業所も含めて情報共有に努めている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		現在該当児は居ないが可能である	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		定期的に研修会に参加している	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%		郊外療育時（公園・児童館）に障がいのない他のこどもと活動する機会を設けている	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%		積極的に参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		連絡帳を活用したり、送迎時に保護者と伝え合っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	83%	17%	保護者を招いて茶話会を開催している	研修の機会が不足している
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		利用契約時に丁寧に説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		児・発・管が本人や保護者の意向を確認して作成している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		個別支援計画を示しながら説明を行い、同意を得ている	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		家族支援日の日程を決めて自宅へ訪問しており、必要に応じて都度の対応を行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	100%		保護者やきょうだい参加型の行事を開催し、交流する機会を設けている	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情相談窓口を設置し対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		毎日の活動状況を個別にブログにて発信していると共に年間行事予定表を配布している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		同意書を交わす等十分に留意している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		子どもの特性に応じて聴覚・視覚から情報を得られるよう工夫しているまた、連絡線を活用し保護者と情報伝達を行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	50%	50%		流行性の感染症等の懸念から地域の方を招待する行事等を開催出来ていない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		契約時に策定した各マニュアルを配布し、説明を行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		年に3回避難訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		契約時、保護者へ聞き取りを行っている	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		家族からの情報提供に沿って対応している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全計画を作成し、安全管理に努めている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		室内掲示板に掲示し、周知を図っているまた契約時や更新時、個別支援計画作成時に説明している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハット事例が発生した際は全職員で共有し、再発防止対策を行っている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		毎月虐待防止委員会を開催しており、研修も合わせて行っている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	83%	17%		対象になりうる児童及び保護者にのみ説明し個別支援計画書に記載している	